

地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウム報告



平成 28 年 10 月 15 日（土）と 16 日（日）の 2 日間、東京都千代田区の東京グリーンパレスにおいて、住民・行政・医療関係者等を一堂に会し、「地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウム 2016」を開催しました。

今回も北は北海道から南は宮崎県まで 78 名の方にご参加いただき、無事に全日程を終えることができました。

1. 開会挨拶

主催者を代表して、公益財団法人地域社会振興財団飯山尚人事務局長が開会の挨拶を行いました。



2. 趣旨説明

趣旨説明では、梶井英治氏（自治医科大学地域医療学センター長）に本シンポジウムの目的、流れ等についてご説明いただきました。



3. グループワーク①

11 グループ（1 グループ 7～8 名）に分かれ、あらかじめ指名させていただいたファシリテーターがまとめ役となり、グループワークを行いました。



まず、小松憲一氏（自治医科大学地域医療学センター助教）より、グループワークの進め方について説明がありました。その後、配布した質問用紙 A に参加者それぞれが『抱えている（直面している）課題』を記入し、グループ内で順番に発表していただきました。発表者以外のメンバーは、発表を聞きながらその課題に対するアドバイスや関連する自分自身の経験等を考え、メモをしていきました。



4. トークセッション

パネリスト各3名の2部構成でトークセッションを行いました。グループワーク①と②の間にトークセッションを入れたことにより、パネリストの発言からも、『抱えている（直面している）課題』に対するヒントを参加者自身に見つけていただくという狙いがありました。

第1部では、パネリストに、住民の立場として、野村和之氏（NPO 法人地域医療を育てる会）、行政の立場として、中村陽子氏（柏崎市役所福祉保健部国保医療課）、医療関係者の立場として、西脇健太郎氏（公益社団法人地域医療振興協会谷汲中央診療所）の3名を迎え、コーディネーターの小松憲一氏の進行によって、それぞれの立場から、現在の活動についての悩みや疑問を自由に語り合っていました。



第2部では、パネリストに、対馬逸子氏（西北五地域医療研究会代表）、福田政憲氏（宮崎県北の地域医療を守る会事務局長）、藤本晴枝氏（NPO 法人地域医療を育てる会理事長）の3名を迎え、コーディネーターの神田健史氏（新潟県福祉保健部参事）の進行によって、住民活動を長く続けておられる方々の、これまでの経験等を自由に語り合っていました。



5. グループワーク②

①の時間に記入した質問用紙 A をグループ内で順番に回し、アドバイス等をメンバーそれぞれ

が質問用紙 B に記入していき、「寄せ書き」のようなイメージです。自身の手元には、メンバーのアドバイスが記された質問用紙 B が残ります。その内容をもとに、質問紙用 C に『課題に対する解決策、今後やってみたいこと』を記入していただきました。その後、質問用紙 C に書いた内容をグループ内で発表していただきました。



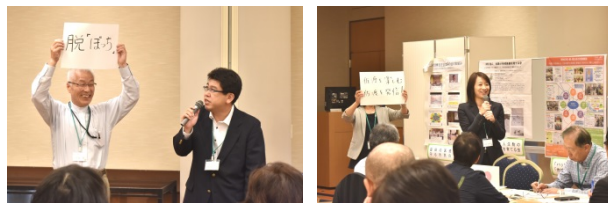
6. ポスターセッション

会場の前方と後方にブースを設け、ポスターセッションを行いました。事前に申し込みのあった10団体の活動報告ポスターを、各ブース5団体ずつ掲示し、1団体の持ち時間を10分として、発表をしていただきました。参加者の皆様には、自由にブース間を移動し、多くの団体の発表を聴いていただきました。



7. 全体会

全体会では、小松憲一氏の進行のもと、各グループ1名ずつ、A3用紙に記入した“決意表明”について発表していただきました。フロアからも発表者に対し、アドバイス等が送られました。



8. 講評および閉会挨拶

梶井英治氏から全体の講評を、小谷和彦氏（自治医科大学地域医療学センター教授）から閉会の挨拶をいただきました。その後、参加者全員で写真撮影（冒頭の全体写真）を行い、無事に2日間の日程を終えました。